

〔科目名〕 財政学	〔単位数〕 4単位	〔科目区分〕 選択必修
〔担当者〕 木立 力	〔オフィス・アワー〕 時間: 開講時にお知らせします 場所: 木立研究室	
〔科目の概要〕 国税、地方税や社会保険料を財源として行われる政府の経済活動について学ぶ。 大きく4つの部分に分かれる。 第1にはミクロ経済学で学んだ「市場の失敗」の考え方を使得って政府の役割を理論的に説明する。 第2には日本および世界の債務累積の現状と財政破綻の可能性を中央銀行の役割についての最新理論を取り入れ平易に解説する。 第3には政府支出の項目の中から、受講者が関心を持ちそうな道路などの公共事業、医療、年金、介護、生活保護などの社会保障、小中学校の義務教育をはじめとする教育をとりあげ、日本における課題を具体的に検討する。 第4は日本の税制および最適課税などの税の経済理論を扱う。		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け〕・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 「財政学」を学ぶのではなく、政府の「財政」を経済学の視点で考えます。 経済学基礎論と、ミクロ経済学を履修済みであることが望ましいが必須ではない。講義の中ではある程度数式などを用いるが平易に解説する。 「財政学」は財政制度や財政政策を重視した内容であり、「公共経済学」はよりミクロ経済理論を重視した内容である。 この講義で財政の大枠を把握した後に、社会保障については「社会保障論」で詳細を学ぶ。 国と地方の財政関係について学んだ内容は、「地域経済学」・「地方財政論」で学ぶ内容と関連する。 世界各国で中央銀行が国債を大量に購入し、金融政策との関連を強めている。「金融経済学」を合わせて履修してほしい。 税制についても多数回扱うので、経営学科の学生にとっても有用と考えている。 財政学は公務員試験、国税専門官試験の出題科目となっているので、出題が予想される範囲は講義で扱うこととする。		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 〔中間目標)]: “暗記”は案外大事である。 新聞やテレビに登場するさまざまな財政問題について、日常生活の必要性から、また国政選挙の投票の判断材料とするために、考えなければならない場面は多い。各種試験で問われる財政事情などに対応できる内容をとりあげる。また、各種試験で問われる財政理論や税理論に十分な水準の解説と問題練習を行う。 〔最終目標): 事実を知っても、それらは年々変化する。理論は問題練習のためにあるのではない。 事実に対して他人が考えた意見を羅列するのではなく、新たな問題に直面した場合でも、経済学の視点から自分で財政の問題を考察する力をつけてほしい。		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 財政の理論だけではなく、時事的な財政問題を取り入れたことはおおむね歓迎されたが、まとまりがない、資料が多すぎるという意見もあった。資料については多少整理します。 昨年度は講堂を使用したので映写されたスライドが見づらい場合があったようです。資料を配布しているので、それで補ってください。		

<p>〔教科書〕 なし</p>	
<p>〔指定図書〕 なし</p>	
<p>〔参考書〕 財務省「日本の財政関連資料」、一方井誠治『コアテキスト環境経済学』、康永秀生『健康の経済学』など講義で多数紹介する。</p>	
<p>〔前提科目〕 経済学基礎論, ミクロ経済学を履修済みであることが望ましい。</p>	
<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 全部の回出席して財政問題についてしっかり考察することが重要であり、その成果としての小テスト 2 回と期末テストの結果のみで評価する。講義資料はアップロードする。出欠はとらないが、出席すれば理解が進むことを私は当然目指している。欠席した回の内容を私が補うことはしない。病欠など以外に就職活動や私用による小テストの欠席については追試も加点も一切行わない。</p>	
<p>〔評価の基準及びスケール〕 80 点以上 A, 70 点以上 80 点未満 B, 60 点以上 70 点未満 C, 50 点以上 60 点未満 D, 50 点未満 F</p>	
<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 受講者が日頃見聞きする財政の問題について考える気持ちが高まるような講義としたい。</p>	
<p>授業スケジュール</p>	
第1回	<p>テーマ(何を学ぶか): 政府の活動 内 容: 財政が取り組む三つの機能について</p>
第2回	<p>テーマ(何を学ぶか): 政府の活動 内 容: 財政が取り組む三つの機能について</p>
第3回	<p>テーマ(何を学ぶか): 政府による資源配分 内 容: 市場の失敗について</p>
第4回	<p>テーマ(何を学ぶか): 政府による資源配分 内 容: 市場の失敗について</p>
第5回	<p>テーマ(何を学ぶか): 日本の財政の現状(1) 内 容: 現在の日本の財政状況について 財務省資料</p>

第6回	<p>テーマ(何を学ぶか):日本の財政の現状(2)</p> <p>内 容:</p> <p>財務省資料</p>
第7回	<p>テーマ(何を学ぶか):日本の財政の現状(3)</p> <p>内 容:</p> <p>財務省資料</p>
第8回	<p>テーマ(何を学ぶか):日本の財政の現状(4)</p> <p>内 容:</p> <p>財務省資料</p>
第9回	<p>テーマ(何を学ぶか):予算制度</p> <p>内 容:日本の一般会計予算の決定過程について</p>
第10回	<p>テーマ(何を学ぶか):費用便益分析</p> <p>内 容:費用便益分析の概要</p> <p>財務省資料</p>
第11回	<p>テーマ(何を学ぶか):費用便益分析</p> <p>内 容:費用便益分析の概要</p> <p>配付資料</p>
第12回	<p>テーマ(何を学ぶか):費用便益分析</p> <p>内 容:費用便益分析の概要</p> <p>配付資料</p>
第13回	<p>テーマ(何を学ぶか):日本の財政運営</p> <p>内 容:日本の近年の財政運営の実態</p>
第14回	<p>テーマ(何を学ぶか):政府支出</p> <p>内 容:教育, 公共事業など支出項目の内容と近年の特徴</p>
第15回	<p>テーマ(何を学ぶか):前半の復習と小テスト</p>
第16回	<p>テーマ(何を学ぶか):日本の税構造</p> <p>内 容:国と地方の税構造, 所得, 消費, 資産の割合についての日本の特徴</p> <p>『図説日本の税制』, など</p>
第17回	<p>テーマ(何を学ぶか):所得税</p> <p>内 容:所得税と所得再分配について</p> <p>井堀6章</p>
第18回	<p>テーマ(何を学ぶか):所得税</p> <p>内 容:所得税のしくみと所得再分配について</p> <p>『図説日本の税制』</p>

第19回	<p>テーマ(何を学ぶか):法人課税, 資産課税 内 容: 日本の法人課税と資産課税について</p> <p>『図説日本の税制』</p>
第20回	<p>テーマ(何を学ぶか):公債の負担 内 容:国債と財政破綻の可能性について</p>
第21回	<p>テーマ(何を学ぶか):年金(1) 内 容:日本と外国の年金制度</p> <p>小塩 8章など</p>
第22回	<p>テーマ(何を学ぶか):年金(2) 内 容:年金財政の将来</p>
第23回	<p>テーマ(何を学ぶか):医療 内 容:日本の医療保険と財政</p>
第24回	<p>テーマ(何を学ぶか):医療 内 容:日本の医療保険と財政</p>
第25回	<p>テーマ(何を学ぶか):地方財政(1) 内 容:日本の中央政府と地方政府の財政関係</p> <p>総務省『地方交付税のあらまし』</p>
第26回	<p>テーマ(何を学ぶか):地方財政(2) 内 容:</p>
第27回	<p>テーマ(何を学ぶか):行政経営 内 容:行政経営について</p>
第28回	<p>テーマ(何を学ぶか):行政経営 内 容:行政経営について</p>
第29回	<p>テーマ(何を学ぶか):財政とマクロ経済 内 容:景気安定化政策</p> <p>小塩 3章</p>
第30回	<p>テーマ(何を学ぶか):後半の復習</p>
定期試験	

